

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こどもプラス豊見城教室3号館			
○保護者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年3月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	41	(回答者数)	41
○従業者評価実施期間	令和7年2月1日 ～ 令和7年3月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	13	(回答者数)	13
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 3月 31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門性の高い支援を提供すること。	理学療法士、作業療法士、保育士といった専門職があり、職員全体の支援の質を高めるために、支援についてのミーティングを必ず実施しています。個別の対応が必要な児童に対して、マンツーマンや少人数での支援時間を設けています。楽しく運動できるように、運動遊びの振り返りを頻繁に行い、当日の利用児童に応じた内容にしています。	毎月の研修以外にも、学術大会への参加やペアレントトレーニング・ABAなど、それぞれの専門的な支援を深めるための個人研修への参加を推奨し、研修に参加しやすい環境作りに努めます。また、児童や保護者様の要望に応じて、学習面や運動面、コミュニケーション面などの課題に対する専門職による個別支援の頻度を増やしていきます。
2	清潔で安全に配慮された環境づくりに努めていること。	日々の清掃や消毒作業など、感染症流行時期に関わらず、感染症対策の強化を図っています。児童の怪我予防のために、教室内の床、壁、ドア枠などのクッション材の使用、活動内容やテーブルの配置などの工夫を行っています。	感染症対策の研修の受講以外にも、発生時の対応策の模擬的な研修の実施や情報共有など、事業所内での勉強会開催の頻度を増やしていきます。定期的に事業所内の環境を全体でチェックする機会を設けて、必要な物品の購入や環境調整を行っています。
3	丁寧なコミュニケーションに努めていること。	児童の活動の様子など、利用時に公式LINEで写真を含めた内容を速やかにお伝えし、必要に応じて対面、または電話での報告を行っています。行事予定に関して、事前にお知らせし、参加希望に関しても当日の様子含めて安心して参加できるように声掛けしています。	困り事や要望などの意見を積極的に聴取できるようにするため、こちらから積極的に声掛けし、必要に応じて面談日を調整・対応できる体制であることを周知していきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	教室内の広さにより、活動内容に制限が出てくること。	曜日によっては利用児童の人数や特性により、運動のためのスペース確保が難しい状況があると認識しています。また、活動内容が運動や制作遊び、ごっこ遊びなど多様となっているため、安全性を考慮し制限せざるを得ない状況となっています。	支援内容によって2階と4階、園外活動と分ける事で、現在のスペースを最大限活用して、必要な支援ができるように検討していきます。また、限られたスペースでの活動のバリエーションを増やし、活動時間を分けて支援する等の工夫を行います。長期的には移転を含めた教室運営も検討していきます。
2	取り組みに関する周知が不十分であること。	公式LINEやブログ、冊子での情報提供を行っていますが、一部の保護者様へ周知できていない可能性があるかと認識しています。個別支援計画作成時、契約時の説明は行っていますが、周知する頻度やタイミングが不十分であると考えています。電話のみ、公式LINEのみなど、それぞれの保護者様に応じた情報提供が不十分であると考えています。	保護者様の要望に応じて、公式LINE以外のSNSの活用も検討し、幅広く、タイミング良くお伝えできるツールの導入を検討していきます。マニュアルや安全対策計画等、周知する頻度の少ない情報に関しては、更新時など含めて定期的にお知らせするようにいたします。教室内の掲示板の工夫を行い、見やすく分かり易い掲示物を心がけていきます。参観日などを設けて取り組みが周知できるようにしていきます。
3	事業所イベントでの保護者様やきょうだい同士の交流の機会が少ないこと。	運動会などのイベントは実施していますが、イベントの開催頻度や内容が不十分であると感じています。イベントによっては保護者様が仕事や私用などで参加が難しい状況があり、配慮する必要があると感じています。楽しく交流できるイベント企画の経験を積んでスムーズに運営できるようにする必要があると考えています。	保護者者交流会のイベント企画を増やし、気軽な交流会やテーマを決めた座談会などを実施していきます。季節のイベントは行事などで、きょうだいの参加を募り、一緒に楽しめる機会を増やしていけるよう配慮いたします。ペアレントトレーニングなど家族支援プログラムの実施を積極的に推奨していきます。